

結西女五

甲陽軍鑑末書結西女五

一 塚原卜傳時五之傳之友

一 信玄名表四抗二箇家しり

一 諡信玄名表四十二箇条しり

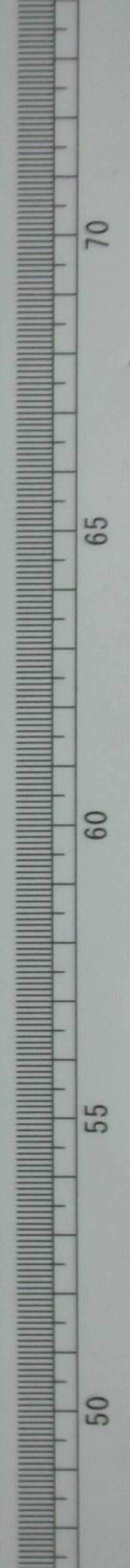
一 信長名表十一箇箇條しり

○右傳書諡信玄七三六初く名表

付しり名表若人し事しり

塚原卜傳しり名表しり

113  
914  
4



甲陽軍鑑末書結要本

五之卷  
大正  
寄贈



- 一 塚原卜傳略五ヶ條之古史
- 一 信玄之名譽四拾二箇条之古
- 一 謙信之名譽四十二箇条之事
- 一 信長名譽十一箇條之事

○右信玄謙信信長三大將之名譽也

付て其法名人之事

一 塚原卜傳と云其術之よ子と云其也



昔我々相も一威多法仁の教度本力此位お  
み勝利も此法極子ときくにかまへたり  
左方相勝而る片手左方也

五 右相も此片手勝利の望み此法をた  
かひ而る右たり必定片手より利とを  
取るとは極く後相も此方へ右左方の  
片手勝負の利とを以て用也 之用也  
十度目及後と云ふは十度なりたる片  
片手より勝るといふと思ふべく勝負

なり以前もト傳の負よせられよ  
せりといふことせりしてト傳は相も傳  
ト傳勝利を教相もこのひつうわを  
たひひつ成うらりなりてト傳勝利は  
多し是れ合く一つ左方此四部よ名人此也  
相もト上手といふは名人よ此也  
之は此計なり如件也

○右大方三人格と此師と新更名卷は法  
手傳も書信まゝ名卷四十二ヶ条

第一位をまゝ水塚十一歳辰の初月十三日駿奔  
考むし時駿奔の神館中間頭を人  
ら所丹勢火く事一 口傳あり

第二位との名地人立給ふ事

第三位原と名山道原隼人依り被給分見  
定く終り事一 口傳

第四位陳城乃右二つ連の焼捨給ふ事一 口傳  
又水塚十二子己れ正月十八日申思云氏政三  
万人の子人殺して申あときけ物も信言云

へ傳とまゝ入魂と云ぐぬきくお給ふ敵勢  
おまゝ積と云ふと流れ一月廿給ふ味  
方酒れ事一 口傳

第五位惣利と云ふ所使と被給伊奈れと云ふ山  
中堅固の地より難新長三子お給ふ事  
類と云ふ事一 口傳あり  
乃原濃合おび川に今所と蘭成と云ふ  
られ夜と類と云ふ事一 口傳あり  
濃三河尾張遠列の今國へお入と給道



目附後目れ邪正ハ言及強正土庫年ハ言常根  
肉通三枚物（中略）真田表表表付ハ人ハ法ハ  
肉ねらね分一くハ信

入  
草一 永録十二子己霜月相列深沢とて小條  
榮木又茨ハ幡と云指物と捨殿少ハ而  
信云云ハ氣足とてれて指止小条表一ハ武  
篇ハ士大羽己ハ名物と捨ハ比自名也然  
ハ指物茨ハ幡りハ黒ハ幡大菩薩  
と書らるれハ並ハ幡と云ハ人字ハ也

人  
なまるといふハ法ノ取ハ信云云大ハい  
ア給ハ小条表ハ表武大ハ正儀我表申  
ても各くハ備一和ハハ可ハ山越後  
徳信ハもろても三川表康會津盛氏  
申田ハ毛利表口必ハ也書我初信草ハ  
佐也此信表もも裁乃まもくハ也  
指ハハハ名物と庫ハ表ハ申ハ行ハハ  
取とて何ハハ信ハ下ハハ人ハ信有真田  
一徳并末ハハ表ハハ田源源信ハハハハハ  
ハ

軍の支よ何れかありて若し必登れ侍り  
武を具と語れよとては奥よりは侍  
牙上護河と云れ唐原大剛の武士也と信言  
改初も後侍是と尾張守人園基も業  
送り人有力は是れ目附預目改と在  
川心なく信濃の預言と送りしはけい  
事大も法法及らるるも園基も業  
力と捨て新ありけくの成乞と侍  
三つく侍事と法為しとて可成と有て

其の事也と是怪大なりと云是と云侍  
深し侍後加格く支わくハ曲既服頼  
と初り成成敷と出定るる皆く一と侍  
重者

○謙佐之名云々四十二箇條

第一 天正元年ハ初め越中侍也ハ侍  
或百騎三百騎或ハ五百騎ハハ士大  
本大持存るに敵ハ負て更もて治  
勝れしハハ敵ハ弱守侍終ハ右  
國と治らるや



才二水録十の卯小護河氏云云信言の甥也  
ありませに信言の也願木帝我信言と其の  
手信言言よもは成給也我信の神胎方  
氏言の婦子也此姫君護河の神敏也  
て所まゝの甲斐甲斐國(護河)も漢言  
と如也初又國東氏康云(と信武苑)より  
野(の)場也我康言ハ我康云此解云  
四年の初也たし甲列信濃と野臨海也  
きよはしく我信言の持之を忠忠と信

思言て我の市也謙信よると死怖と云  
西(將)物信言と云の也場也我其の地也  
氣或ハ弱了と云の也信言ハ信言と云新ハ  
さかん母元合可中も場也其の上野信濃甲斐  
も三ヶ國へ越後も入下中と云て入の也  
物も或も也と云の也信言と云謙信と云  
強のちたかも邪彼邪道のなき名也敵  
方より一巻い事

才三元無元年春尾列此信也三列此康

相見中東家より備後へ頼身して信玄  
へ四方より働入るとも時備後四人く  
信玄とちやうと信濃して二人けり武蔵  
者と信玄といふ人本口借とて備後  
信といふとくハ奥より深し剛強ハ名好電  
心勝つるなり

中五 天正三年四月十二日信玄が御吊を國よ  
命下不定の煩と写て歎かると事剛強  
此を地心とされて名好電死すと事

川大通に勝國師とて傳高山族山流山名  
信を十三人下火典茶てんたし其時  
名言より一月此間も信玄へ廣まらざる事  
守備後越後の地場と指首より器り用  
心く極まりは奥より深し口好電好電

○信長名を言十一ヶ条に及

中一 右 形 形 十一 辰 格 月 信 玄 駿 河 露 向

時より所から位と位を大にたすこは入魂  
秋中十席素行役日らをたす十席素行位  
素行人教の多神位をたす十席素行位  
この方とPの甲并より後并と(幾日)押行  
と(何)十席素行位八七日日押行  
ある後飛脚に幾日と(何)三日(何)P  
う(何)位を新日目と(何)又(何)  
信去れ人教三(何)何(何)小并  
み(何)中(何)く(何)の(何)積(何)

一 飛脚の道積 二 宿(何)積 三 甲并(何)  
後并と(何)富士(何)下方(何)大(何)地(何)の(何)具(何)  
人教(何)れ(何)道(何)下(何)山(何)通(何)り(何)成(何)へ(何)と(何)P(何)位  
と(何)と(何)や(何)四(何)位(何)ま(何)れ(何)所(何)持(何)分(何)出(何)教(何)積  
位(何)位(何)の(何)と(何)又(何)と(何)年(何)廿(何)六(何)歳(何)何(何)也  
二 永源十三(何)午(何)歳の(何)三月(何)合(何)付(何)へ(何)教(何)白(何)位  
江(何)水(何)浅(何)井(何)傍(何)前(何)に(何)位(何)を(何)妹(何)并(何)と(何)す(何)る  
位(何)を(何)心(何)奇(何)事(何)と(何)思(何)ふ(何)と(何)て(何)一(何)度(何)位  
出(何)れ(何)り(何)と(何)思(何)ふ(何)物(何)并(何)を(何)付(何)方(何)より

敵いしや清井しりん征撫せしす又もて並列  
忍井の事慮ふかきつひか一若後国本頼  
て至信也ハ神前念ヶ侍へたおくと深働  
らぬと信人深入とれ海江や ことにて清井  
信前守徳河ふとまて送心や信也ハ二騎  
よく早く波阜へ川入流し相若枝のほよく  
事慮信也れお務と待集川退江列守山ハ  
かき事記ともひか一兄弟安物くまおと日毫  
日せくれ人らと休むを江子種越とのころく

其ハ事慮ハ八軍也信也ハ世七歳やま子  
の六月廿八日ハ婿川合戦よから別越へり  
三好とすもや一己に打井と天下征討代こと  
ゆらるる同年れ七月や相佐也人と見知ら  
る前れも之敵めをこいとあらしむるもま  
末代れ大お前も本とすもま

身三野田福徳の教向ハ信也小幡山ハ陣れ先  
元右ハ野田福徳へまら勢ハ譜代元也  
箭れ切者と世用由子員流是方ハ指茶

伊豫と云ふ氣に類し被定るる人  
見ふ給ふ猶葉伊豫下知ける事  
末代日本武土大將と可用に傳ふ  
物中作也小幡山之陣九武通に依る  
理のあき跡先代末代に傳ふ  
才四 **天正**三年五月廿五日長藤合戦前廿日  
四なり一此時家康此中酒井宗茂尉ハ  
勝頼の甥法軍人武田玄庫を類として  
余りまびくす持とるる事へは是れ由人教一

百程と云ふ向ふと云ふ信長大よいる事  
と云ふは則ち是より宗茂は宗茂と奥に  
關持り前末代に傳ふ事也

才五 **天正**七年卯辰の歲也越後蒲原前寅三月地  
東ありて松本邪氣に傳ふ事也松本多  
より送四仕候の如き是も末代のも事一國  
よめを國十ヶ國とすといふ事也此大將も  
成は奥に傳ふ事也

○右三大將母御奥に傳ふ事也

下傳名人之正儀也小方々々ト傳ハ大カ  
のさ地ま系一人勝つ積りト困おのら  
入儀也何茂結要ト傳石印トて不係ハ  
武古れちる朝ト成ていっといぬ件

早稲田大学図書館

011888006615